

## 1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育



村での保健栄養啓発セッションの様子。合計6タウンシップ300村において、乳幼児の適切な食生活、栄養不良などをテーマとしたセッションを、月2回開催した。



セッションには、妊産婦、母親や保護者、子どものケアに影響力のある村のリーダー、父親、祖父母など、延べ104,194人（平均27人/回）の地域住民が参加した。



啓発セッションでは、育成した保健ボランティアが中心的な役割を果たし、また、必要に応じて助産師も参加している。（写真の女性は参加した助産師）



主要な小児感染症の危険徴候について、視聴覚教材を用いた啓発セッションを開催した。延べ20,013人（平均35人/回）の5歳未満の子どもを持つ母親や保護者が参加した。

## 2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供



新生児ケア研修の様子。ボランティアは、安全なお産、母乳・補助食の栄養指導や継続ケアの重要性などについて学んだ。（写真は「安全なお産セット（Clean Delivery Kit）」の説明）



新生児ケア研修と妊産婦ケア研修を通して、592人のRHボランティアが育成された。



ケースマネジメント研修の様子。研修を通して、596 人の CCMP が育成された。



ケースマネジメント研修では、下痢や肺炎など一般的な小児疾患の対処方法や栄養指導などの家庭での疾病予防とケアを取り扱った。

### 3. 医療専門家との連携による保健システムの強化



現地保健当局と連携し、合計 70 人の助産師に対し、緊急産科ケア、新生児ケア、母乳・補助食の栄養指導に関する 10 日間の研修を実施した。



現地行政の医療従事者の継続学習支援の様子。月 1 回のセッションを行い、主要な小児感染症への対処やリプロダクティブ・ヘルスなどについての再学習を支援した。セッションには、6 つのタウンシップ保健局合計平均 265 人/回の医療従事者が参加した。



補助助産師研修生に対する研修の様子。研修は 6 か月間行われた。



補助助産師育成研修の結果、114 人の補助助産師を育成することができた。

#### 4. コミュニティでのケアの質の向上と定着



村の保健栄養チームの能力を向上させるため、メンバー1,392人に対して、コミュニティ・アクション・プラン、リーダーシップ、マネジメントに関するワークショップを実施した。



地域住民による地域の保健センターへの視察訪問の様子。妊婦や5歳未満の子どもを持つ母親・養育者をはじめとする女性4,988人が参加した。



地域の保健センターへの視察訪問では、保健栄養に関する適切な実践やセンターでケアを受けることの重要性についての理解を深めた。